

課題

大倉山・宮の森両ジャンプ競技場は以下の課題を抱えている。

国際競技規則に適合していない

- 選手の飛距離の伸びに対応した最新の国際競技規則に適合していない。
- 国際大会を継続して開催するために、F I Sの公認更新が必要。
- トップ選手の強化・育成環境としても課題。

施設の老朽化・陳腐化が進行

- 宮の森は1972年当時の施設が多く老朽化が進行。
- 大倉山は平成初期にリニューアルしたものの一部設備の老朽化・陳腐化が進行。

「高次機能交流拠点」としての機能強化

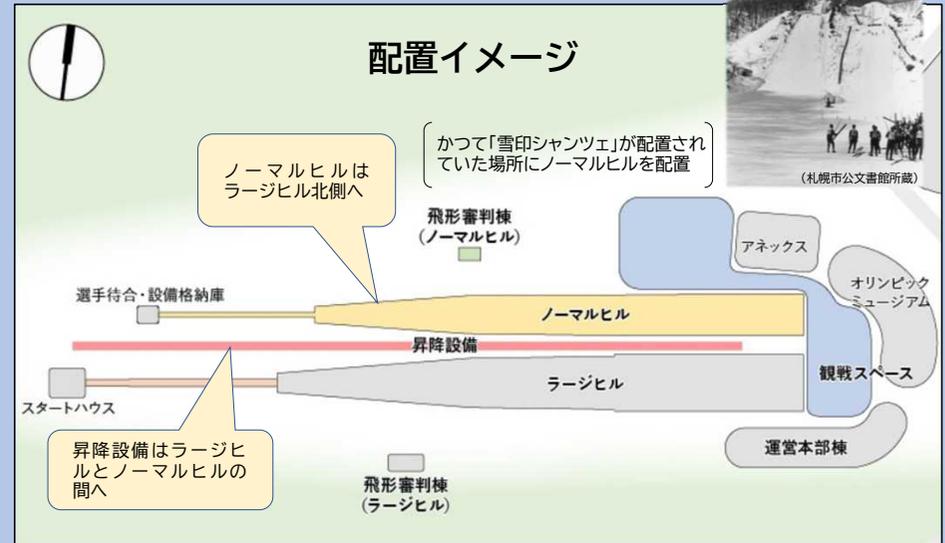
- 大倉山は年間約40万人が訪れる観光施設ともなっている。
- 将来にわたっても、スポーツや観光等といった多様なメッセージを発信していくための機能強化の具体化が必要。

目指す施設の在り方

両ジャンプ競技場をそれぞれ現地で改修する場合に比べて効果が見込まれることから、**大倉山でのデュアル化（併設化）を目指す。**

期待される効果

- ◎運営本部棟の共用等により**改修費の低減。**
- ◎光熱水費、点検費、除排雪等の**維持管理費の低減。**
- ◎選手・関係者の移動、資機材の運搬等、**大会運営や選手の強化・育成の効率化。**
- ◎練習での使用頻度の多いノーマルヒルの日常の**練習風景の新たな観光資源化。**
- ◎都心等からノーマルヒルへの**アクセス性の向上。**



「世界屈指のウィンタースポーツシティ・札幌」の新たなシンボルへ

R7年度実施内容と想定スケジュール

R7年度予算計上の内容

FIS公認更新期限である2028年に向け、先行してLHの設計に着手

W杯等の国際大会を継続開催

<設計の内容>

- 最新の国際競技規則に適合させるため、LHインラン部の傾斜や曲線の緩和。(想定工事費：40億円)
- 老朽化が進む競技設備の更新。(想定工事費：※20億円)



※通常の維持管理の中で行う老朽設備の更新についても、タイミングを合わせて、効率的に工事を実施。

※ノーマルヒル整備にあたっては環境対策の検討状況に応じて後年度のスケジュールを見直す可能性がある。上記は最短で進んだ場合の想定スケジュールである。

R7年度以降も引き続き検討を進める事項

- ノーマルヒル併設化に向けた環境保全対策の検討
 - ・R5～6年度に環境アセスメントに準じた自主的な環境調査を実施。
 - ・この環境調査結果をもとに、R7年度は専門家等のアドバイスを適宜反映させながら、適切な環境対策の検討を進めていく。
- 競技の魅力発信や観光利用の促進に向けた検討
 - ・更新時期を迎える大倉山のリフトを、所有する札幌振興公社と連携し、ゴンドラ等の昇降設備のバリアフリー化を検討。
 - ・夜景や眺望など、大倉山の魅力をより一層引き立てる環境整備についても検討。

